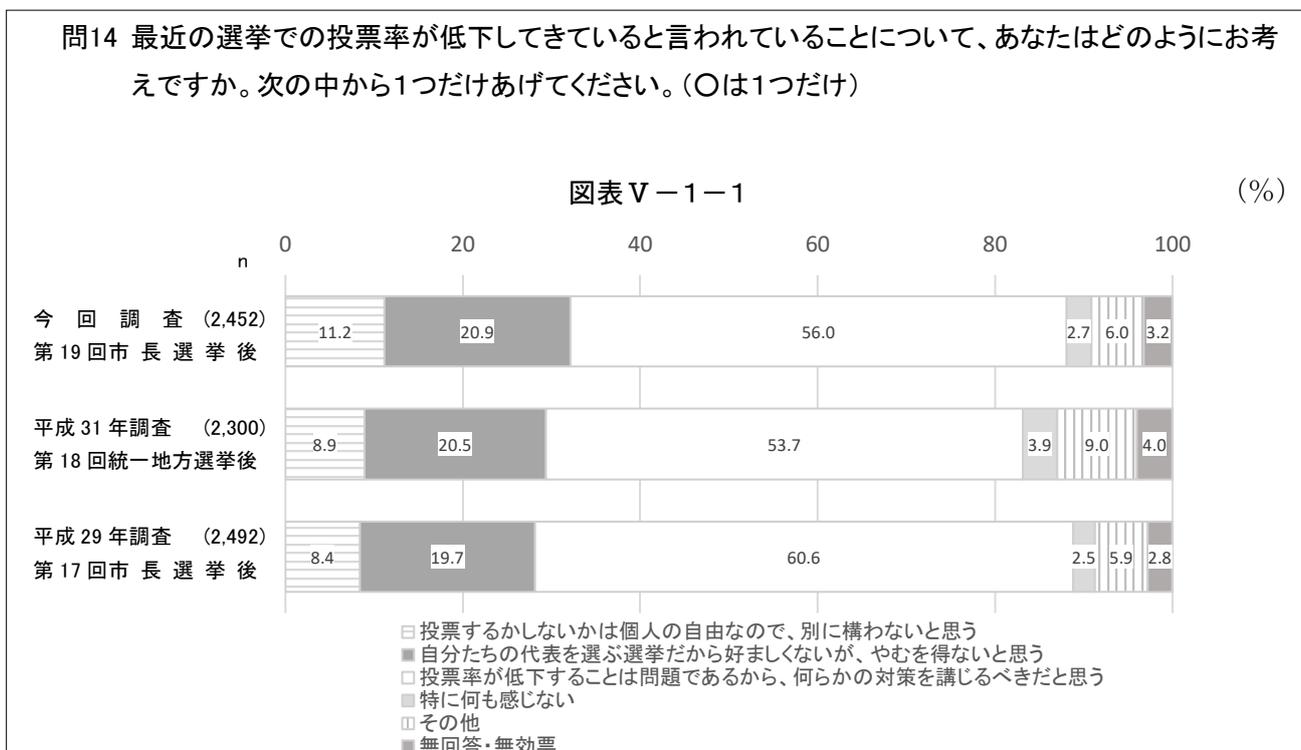


## V 投票率や制度の改善に関する意識

### 1 投票率の低下

◇ 「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」が 56.0%

問14 最近の選挙での投票率が低下してきていると言われていることについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つだけあげてください。(○は1つだけ)



最近の選挙での投票率の低下について聞いたところ、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」が 56.0%と最も多く、次いで「自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくないが、やむを得ないと思う」(20.9%)、「投票するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(11.2%) などとなっている。

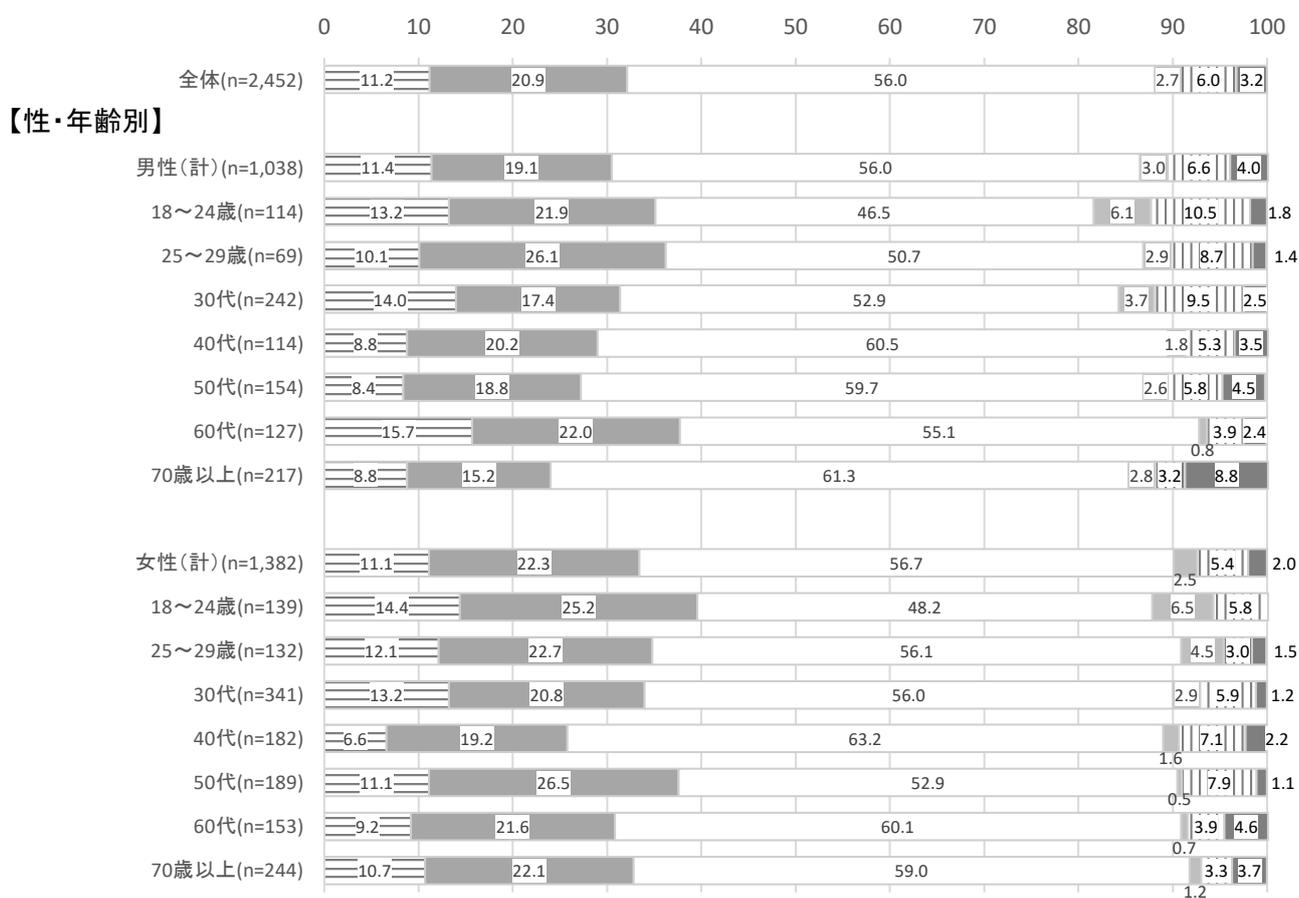
平成31年調査(第18回 統一地方選挙後)と比較すると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」(56.0%)は、前回(53.7%)より2.3ポイント減少している。(図表V-1-1)

性・年齢別にみると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」がすべての年代で最も割合が高く、男女ともに「18～24歳」以外は、5割以上となっている。(図表V-1-2)

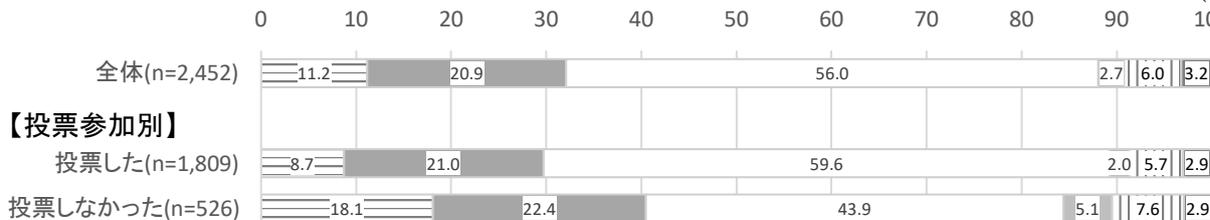
投票参加別にみると、「投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う」は「投票した」(59.6%)の方が、「投票しなかった」(43.9%)より15.7ポイント高くなっている。一方、「自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくないが、やむを得ないと思う」は「投票しなかった」(22.4%)の方が、「投票した」(21.0%)より1.4ポイント高く、「投票するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」は「投票しなかった」(18.1%)の方が、「投票した」(8.7%)より9.4ポイント高くなっている。(図表V-1-2)

図表V-1-2 投票率の低下(性・年齢別、投票参加別)

(%)



(%)



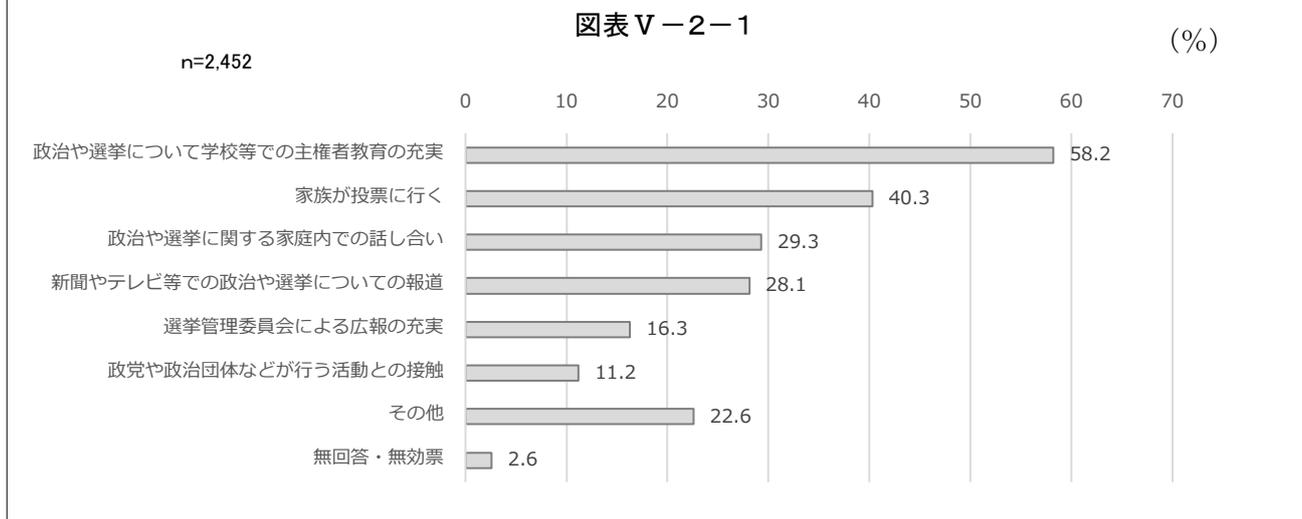
- 投票するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う
- 自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくないが、やむを得ないと思う
- ▨ 投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講じるべきだと思う
- ▩ 特に何も感じない
- ▤ その他
- 無回答・無効票

## 2 若年層における投票意識の向上

◇「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」が 58.2%

問15 全体の投票率から見ると、若年層の投票率は平均より10ポイント以上低い状況が続いています  
が、若年層の投票への意識を高めるためには、どのようにしたらよいと思いますか。

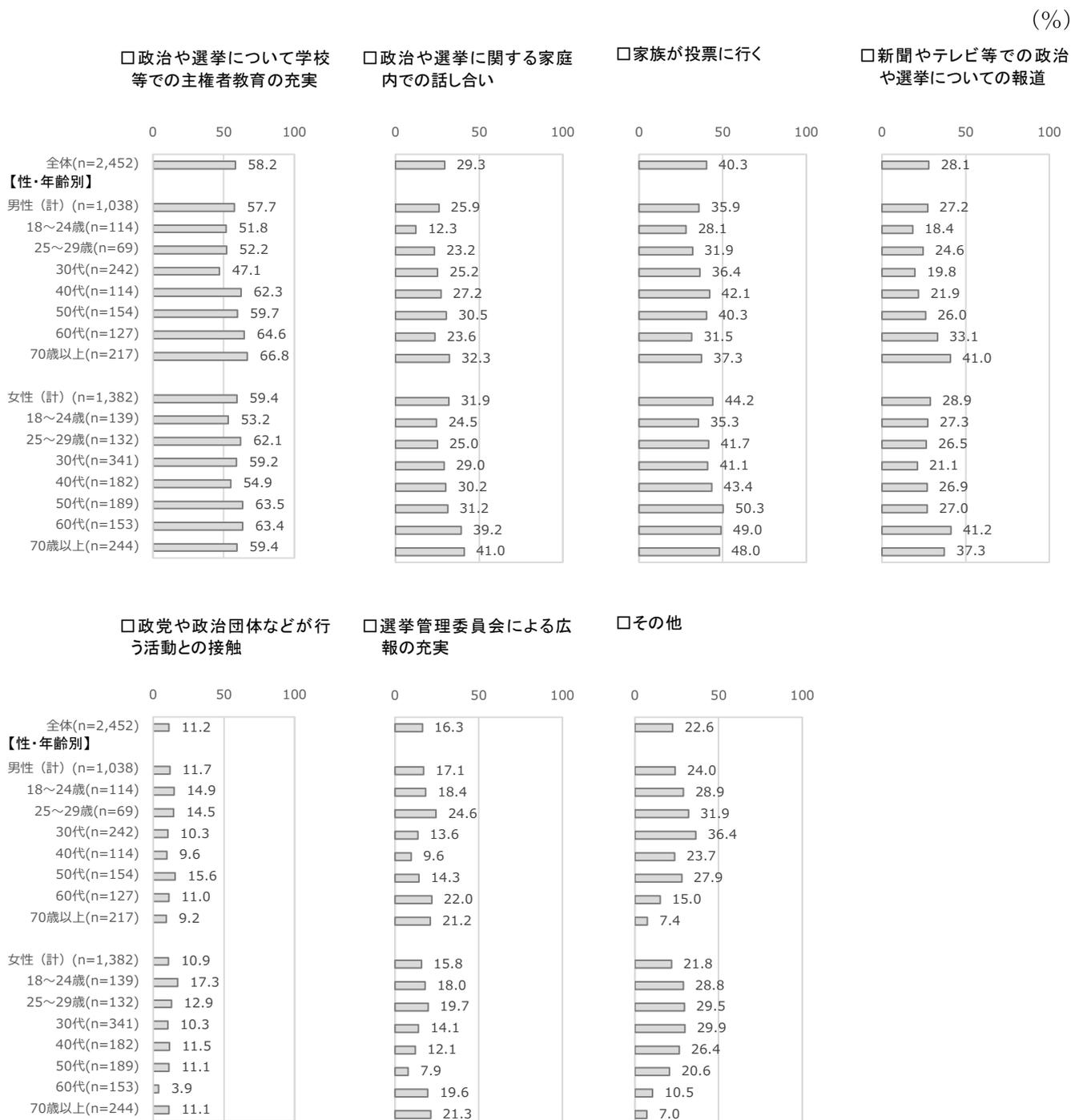
(○はいくつでも)



若年層における投票意識の向上について聞いたところ、「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」が 58.2%で最も多く、次いで「家族が選挙に行く」(40.3%)、「政治や選挙に関する家庭内での話し合い」(29.3%)の順となっている。(図表 V-2-1)

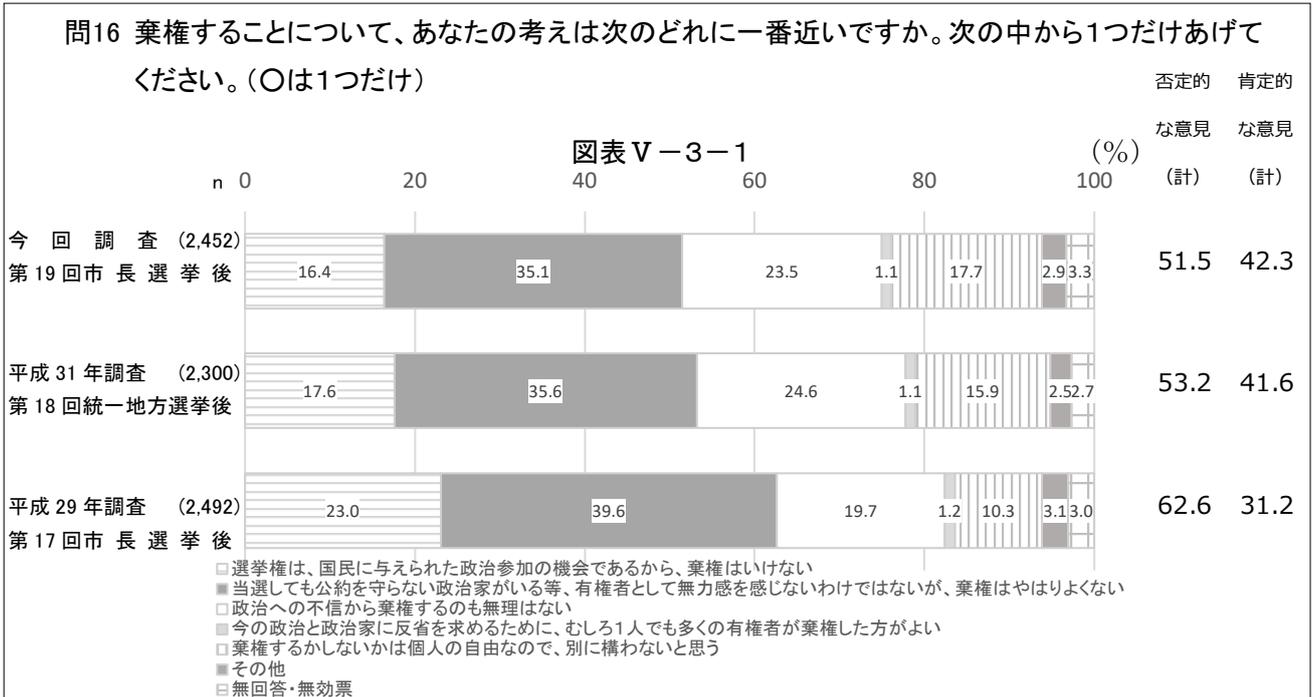
性・年齢別にみると、「政治や選挙に関する家庭内での話し合い」は、男女ともに若い年齢ほど低く、おおむね年齢が上がるにつれて高い割合になる傾向が見られた。(図表V-2-2)

図表V-2-2 若年層における投票意識の向上(性・年齢別)



### 3 棄権に対する考え方

◇「棄権はやはりよくない」が 35.1%



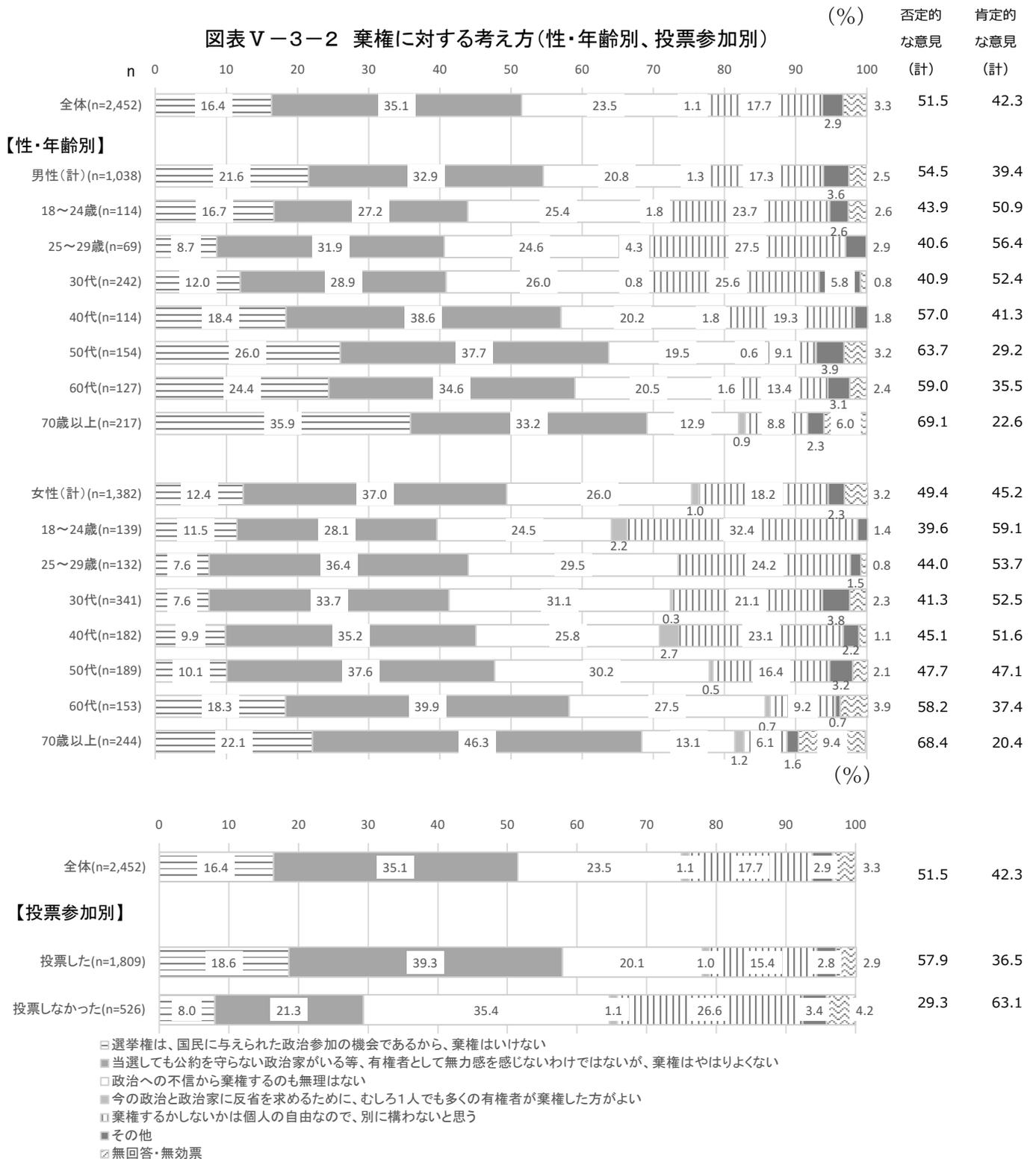
棄権することについて聞いたところ、「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」が 35.1%で最も多く、次いで「政治への不信から棄権するのも無理はない」(23.5%)、「棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(17.7%)の順となっている。

棄権に対して「当選しても公約を守らない政治家がいる等、有権者として無力感を感じないわけではないが、棄権はやはりよくない」(35.1%)と「選挙権は、国民に与えられた政治参加の機会であるから、棄権はいけない」(16.4%)を合わせた『否定的な意見(計)』は、51.5%となった。一方、「政治への不信から棄権するのも無理はない」(23.5%)と「棄権するかしないかは個人の自由なので、別に構わないと思う」(17.7%)と「今の政治と政治家に反省を求めるために、むしろ1人でも多くの有権者が棄権した方がよい」(1.1%)を合わせた『肯定的な意見(計)』は、42.3%となった。

平成31年調査(第18回統一地方選挙後)と比較すると、棄権することについて『否定的な意見(計)』は減少しており、『肯定的な意見(計)』は増加している。(図表V-3-1)

性・年齢別にみると、棄権に対して『否定的な意見（計）』は、男女ともに若い年齢ほど低く、年齢が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、特に男性70歳以上では69.1%、女性70歳以上では68.4%となっている。（図表V-3-2）

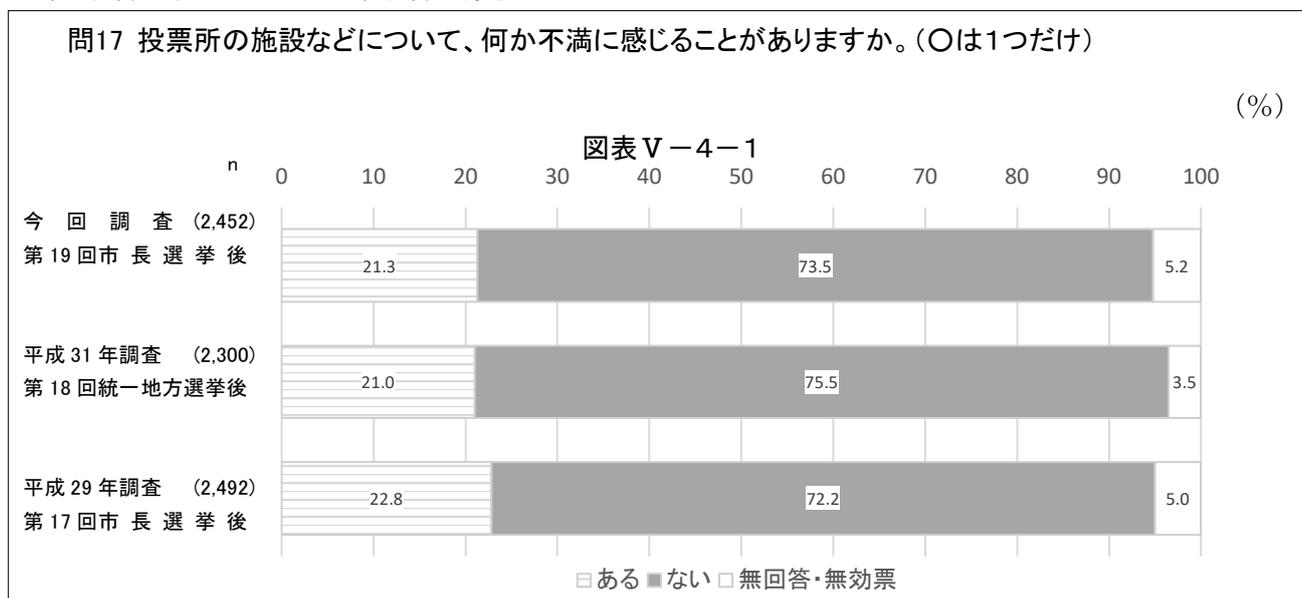
投票参加別にみると、『否定的な意見（計）』は、「投票した」（57.9%）が「投票しなかった」（29.3%）より28.6ポイント高くなっている。（図表V-3-2）



#### 4 投票所施設

##### (1) 投票所施設への不満の有無

◇ 不満がない人は 73.5%、不満がある人は 21.3%

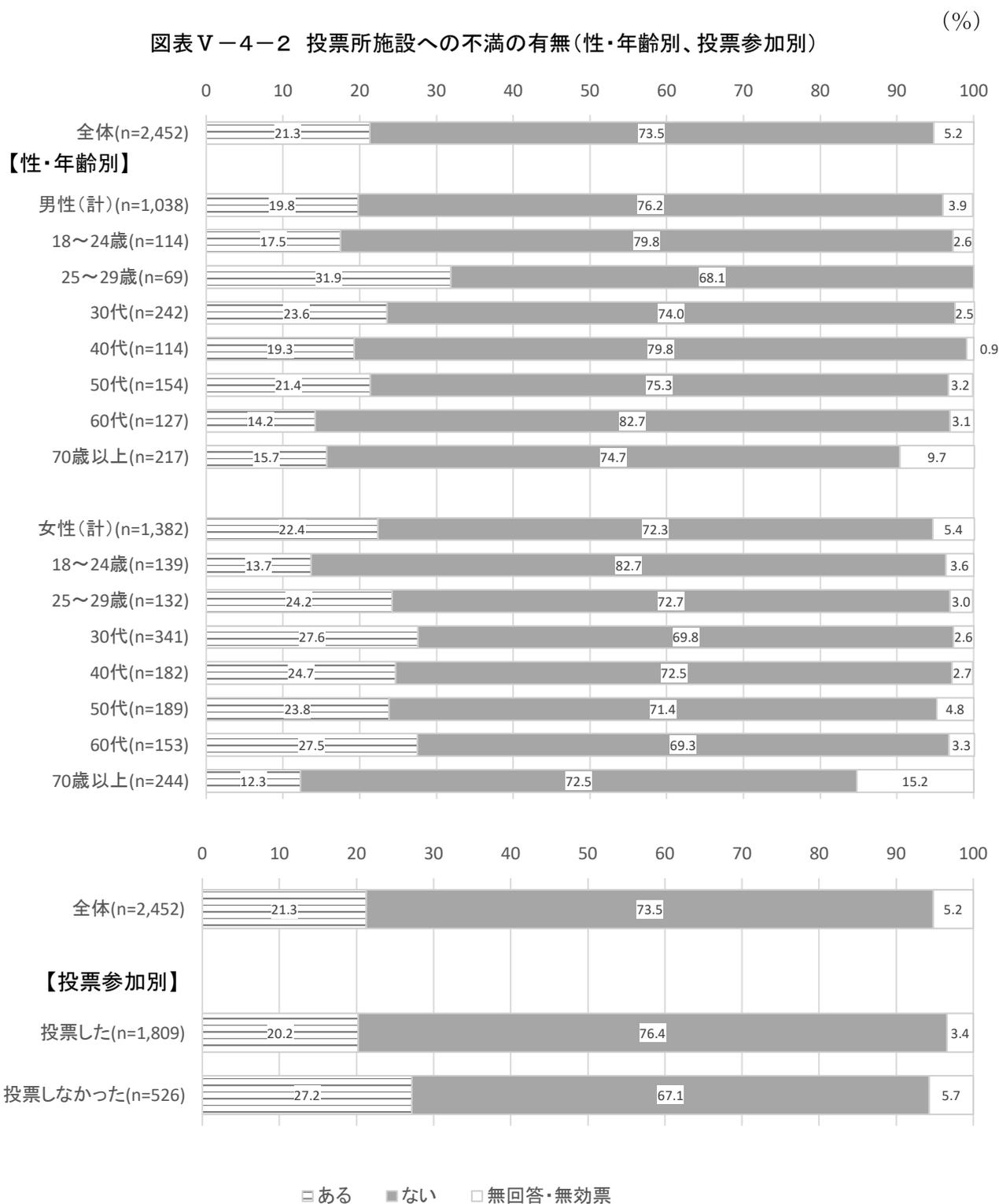


投票所の施設などについての不満を聞いたところ、不満が「ある」が 21.3%、「ない」が 73.5%となっている。

平成 31 年調査（第 18 回 統一地方選挙後）と比較すると「ある」（21.3%）は前回（21.0%）より 0.3 ポイント増加している。（図表V-4-1）

性・年齢別にみると、不満が「ある」は、男性では「25～29歳」、女性では「30代」が最も高く、男性の「60代」と女性の「70歳以上」が最も低い。(図表V-4-2)

投票参加別にみると、不満が「ない」は投票した人(76.4%)の方が、投票しなかった人(67.1%)より9.3ポイント高い。(図表V-4-2)

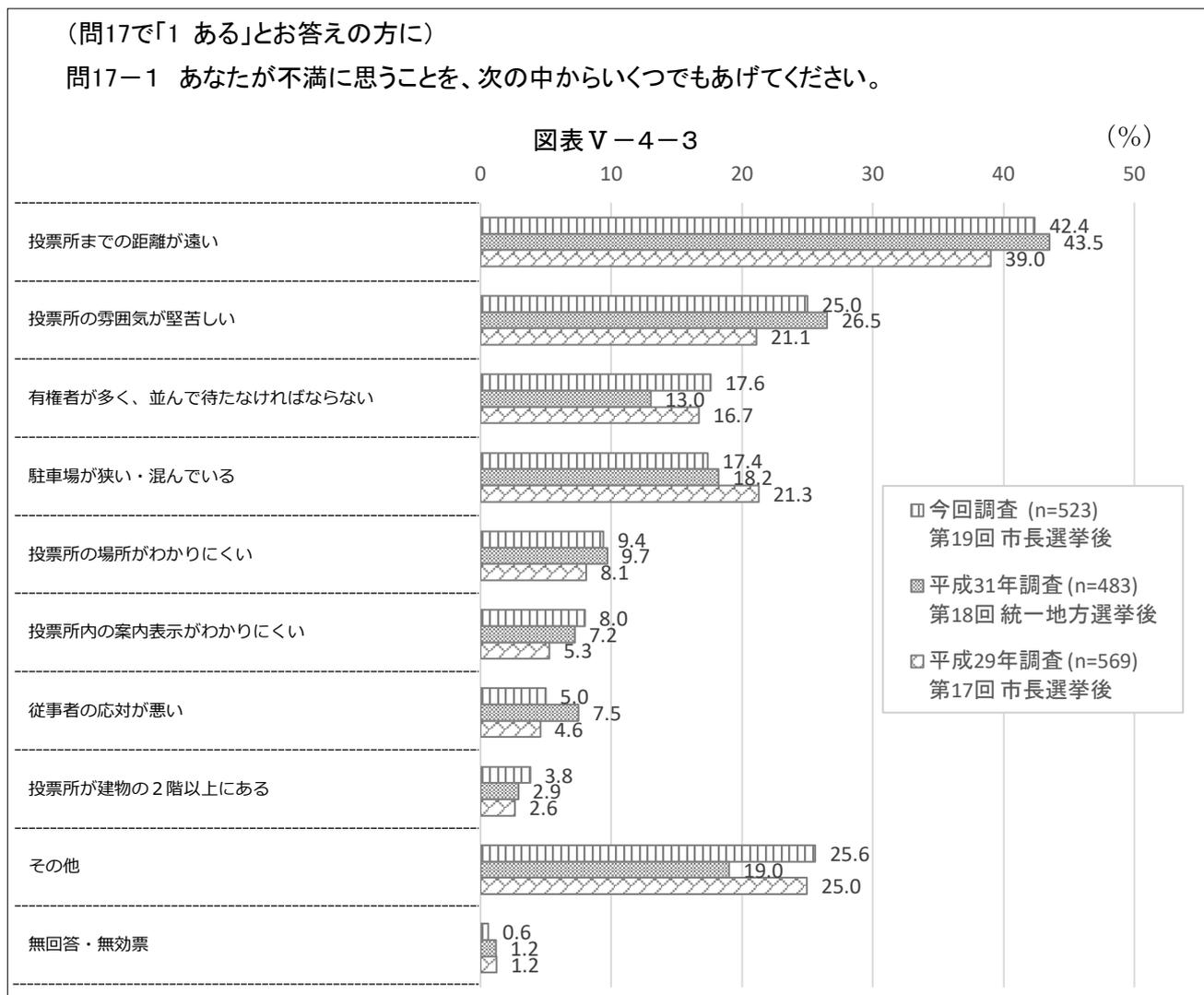


(2) 投票所施設への不満点

◇「投票所までの距離が遠い」が 42.4%

(問17で「1 ある」とお答えの方に)

問17-1 あなたが不満に思うことを、次の中からいくつかもあげてください。



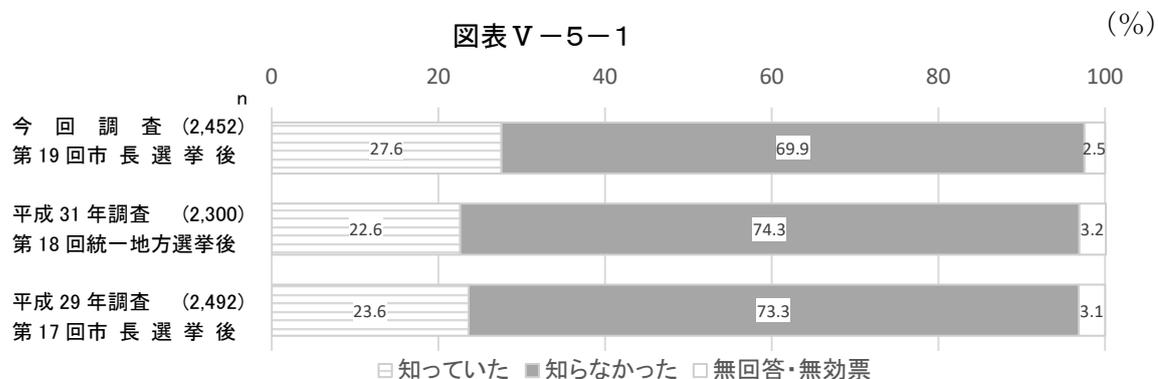
投票所の施設などについて不満が「ある」と答えた方 (523 人) に、不満に思うことは何か聞いたところ、「投票所までの距離が遠い」が 42.4%で最も多く、次いで、「投票所の雰囲気が堅苦しい」(25.0%) 「有権者が多く、並んで待たなければならない」(17.6%) などの順となっている。

平成 31 年調査 (第 18 回 統一地方選挙後) と比較すると、上位 5 項目のうち、「有権者が多く、並んで待たなければならない」は増加しており、「投票所までの距離が遠い」「投票所の雰囲気が堅苦しい」「駐車場が狭い・混んでいる」「投票所の場所がわかりにくい」は減少している。(図表 V-4-3)

## 5 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度の認知

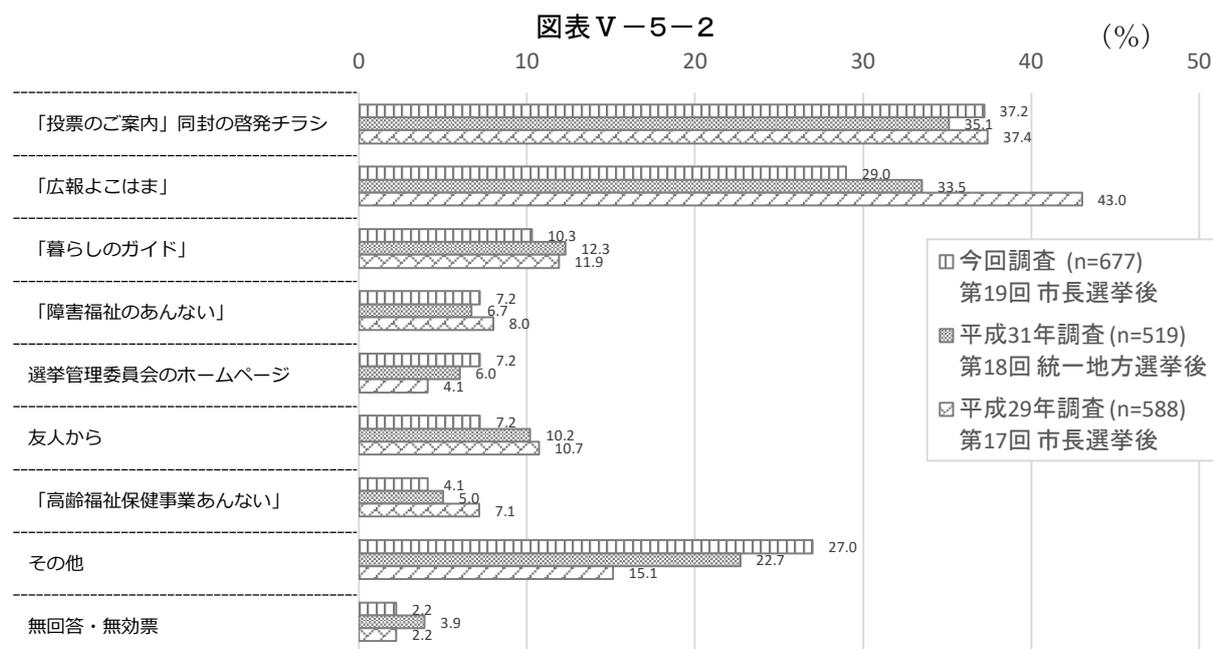
### ◇ 郵便投票制度を「知っていた」は27.6%

問18 あなたは、身体に重度の障害のある方や要介護5の方が自宅等で郵便により投票ができること（郵便投票制度）をご存じでしたか。（○は1つだけ）。



(問18で「1 知っていた」とお答えの方に)

問18-1 このことを何で知りましたか、次の中からいくつでもあげてください。（○はいくつでも）



身体に重度の障害のある方や要介護5の方が自宅等で郵便により投票ができること（郵便投票制度）を知っているか聞いたところ、「知っていた」は27.6%、「知らなかった」は69.9%となっている。

平成31年調査（第18回統一地方選挙後）と比較すると、「知っていた」（27.6%）が前回（22.6%）より5.0ポイント増加している。（図表V-5-1）

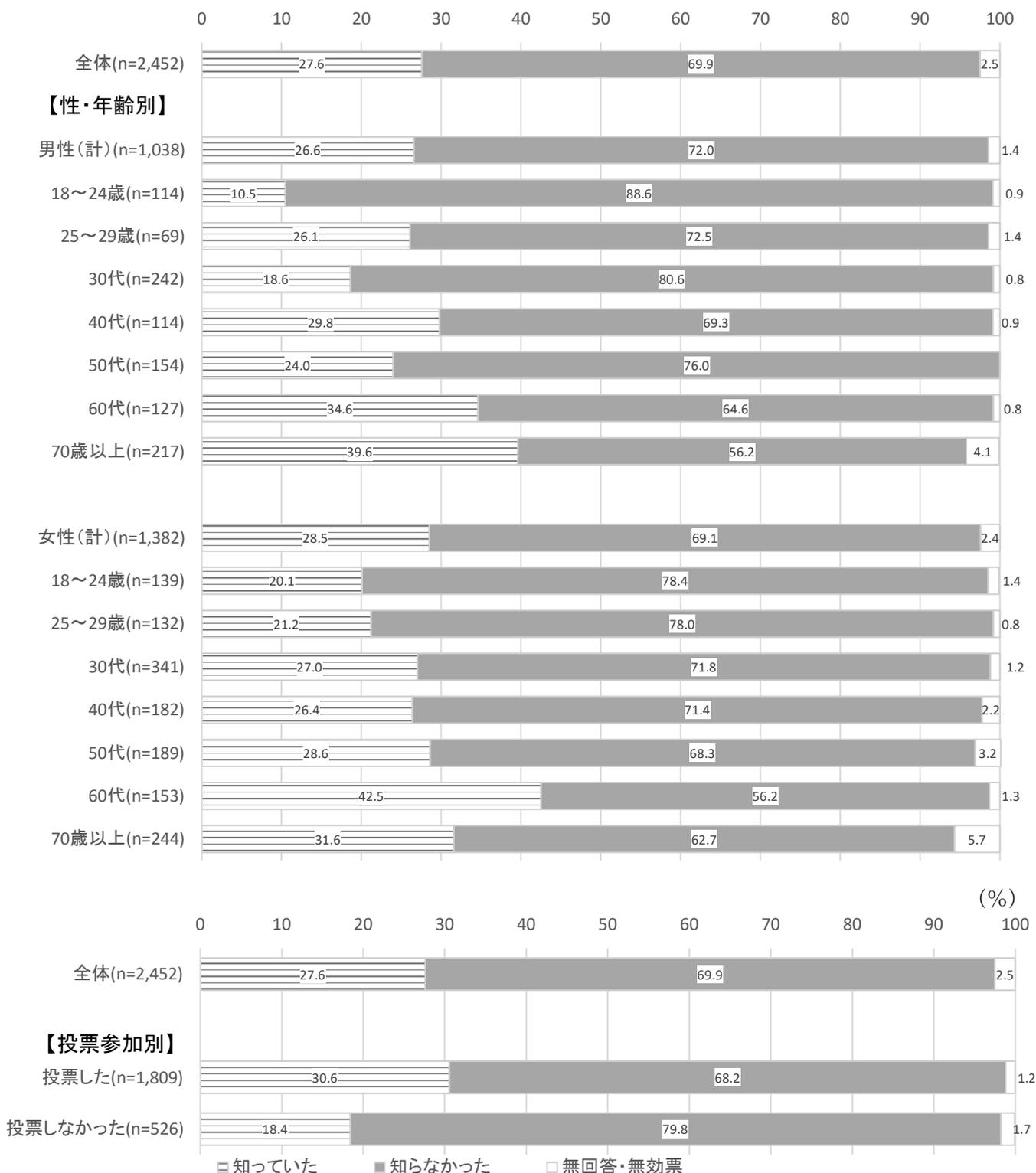
「知っていた」と答えた人（677人）に、知ったきっかけを聞いたところ、『「投票のご案内」同封の啓発チラシ』が37.2%で最も多く、次いで、『「広報よこはま』』（29.0%）、『「暮らしのガイド』』（10.3%）などの順となっている。

平成31年調査（第18回統一地方選挙後）と比較すると、上位5項目のうち、『「投票のご案内」同封の啓発チラシ』、『「障害福祉のあんない』』、『「選挙管理委員会のホームページ』』が増加している一方で、『「広報よこはま』』、『「暮らしのガイド』』が減少している。（図表V-5-2）

性・年齢別にみると、「知っていた」は、男性では「70歳以上」が39.6%で最も多く、女性では「60代」が42.5%で最も多くなっている。(図表V-5-3)

投票参加別にみると、「知っていた」は投票した人(30.6%)の方が、投票しなかった人(18.4%)より12.2ポイント高くなっている。(図表V-5-3)

図表V-5-3 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度の認知(性・年齢別、投票参加別)(%)

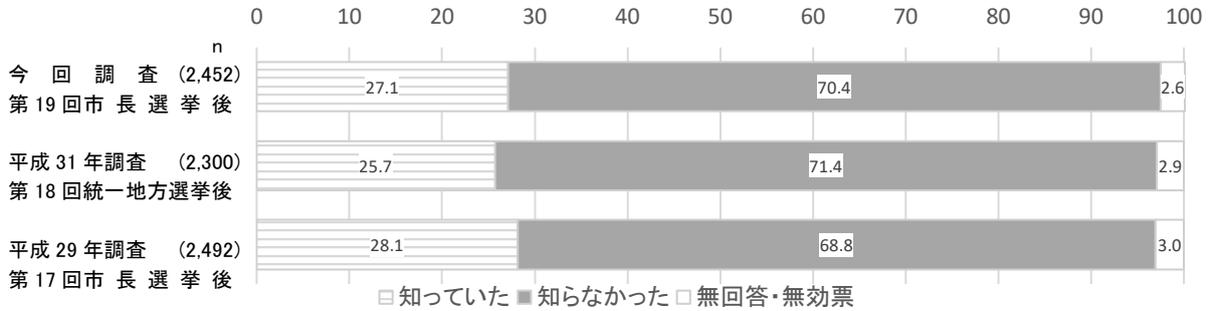


6 病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度の認知

◇ 施設内投票制度を「知っていた」は 27.1%

問19 あなたは、都道府県選挙管理委員会が指定した病院や老人ホーム等に入院、入所している方がその施設で投票ができることをご存じでしたか。(○は1つだけ)。

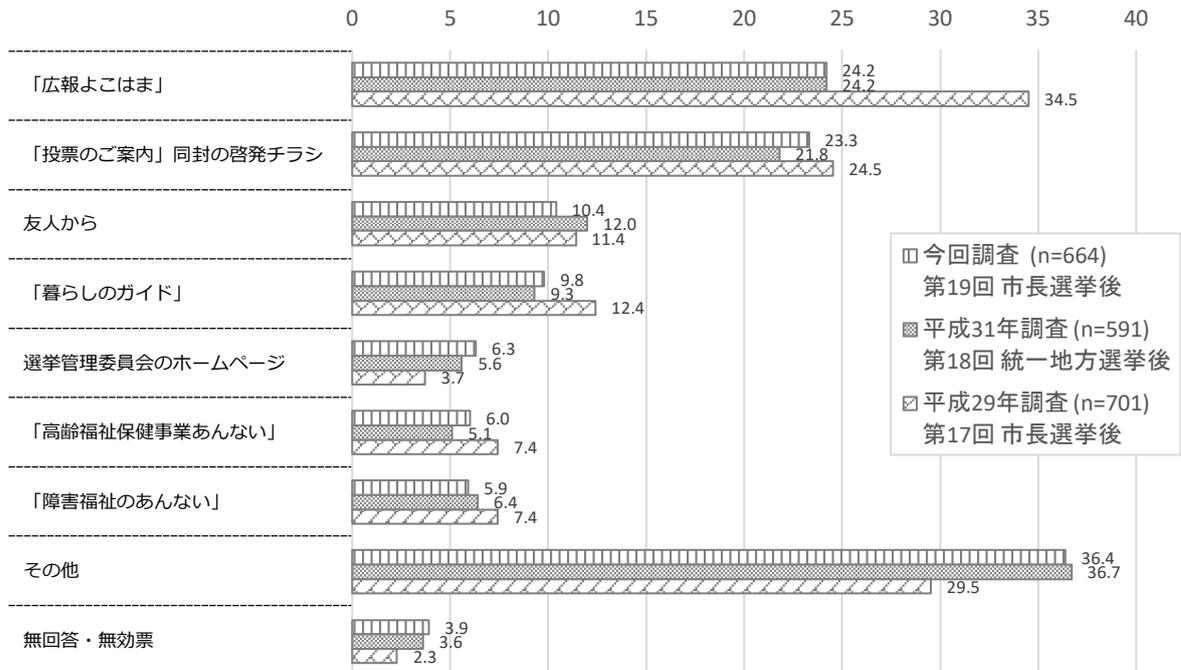
図表V-6-1 (%)



(問19で「1. 知っていた」とお答えの方に)

問19-1 このことを何で知りましたか、次の中からいくつでもあげてください。(○はいくつでも)

図表V-6-2 (%)



都道府県選挙管理委員会が指定した病院や老人ホーム等に入院、入所している方がその施設で投票ができることを知っているか聞いたところ、「知っていた」は 27.1%、「知らなかった」は 70.4%となっている。(図表V-6-1)

「知っていた」と答えた人(664人)に、知ったきっかけを聞いたところ、『「広報よこはま」』(24.2%)、『「投票のご案内」同封の啓発チラシ』(23.3%)、『友人から』(10.4%)などの順となっている。

平成31年調査(第18回統一地方選挙後)と比較すると、上位5項目のうち、『「投票のご案内」同封の啓発チラシ』、『「暮らしのガイド」』、『選挙管理委員会のホームページ』が増加している一方で、『友人から』が減少している。『「広報よこはま」』は平成31年調査と同じ割合となった。(図表V-6-2)

性・年齢別にみると、「知っていた」は、『男性(計)』(24.1%)より『女性(計)』(29.2%)の方が5.1

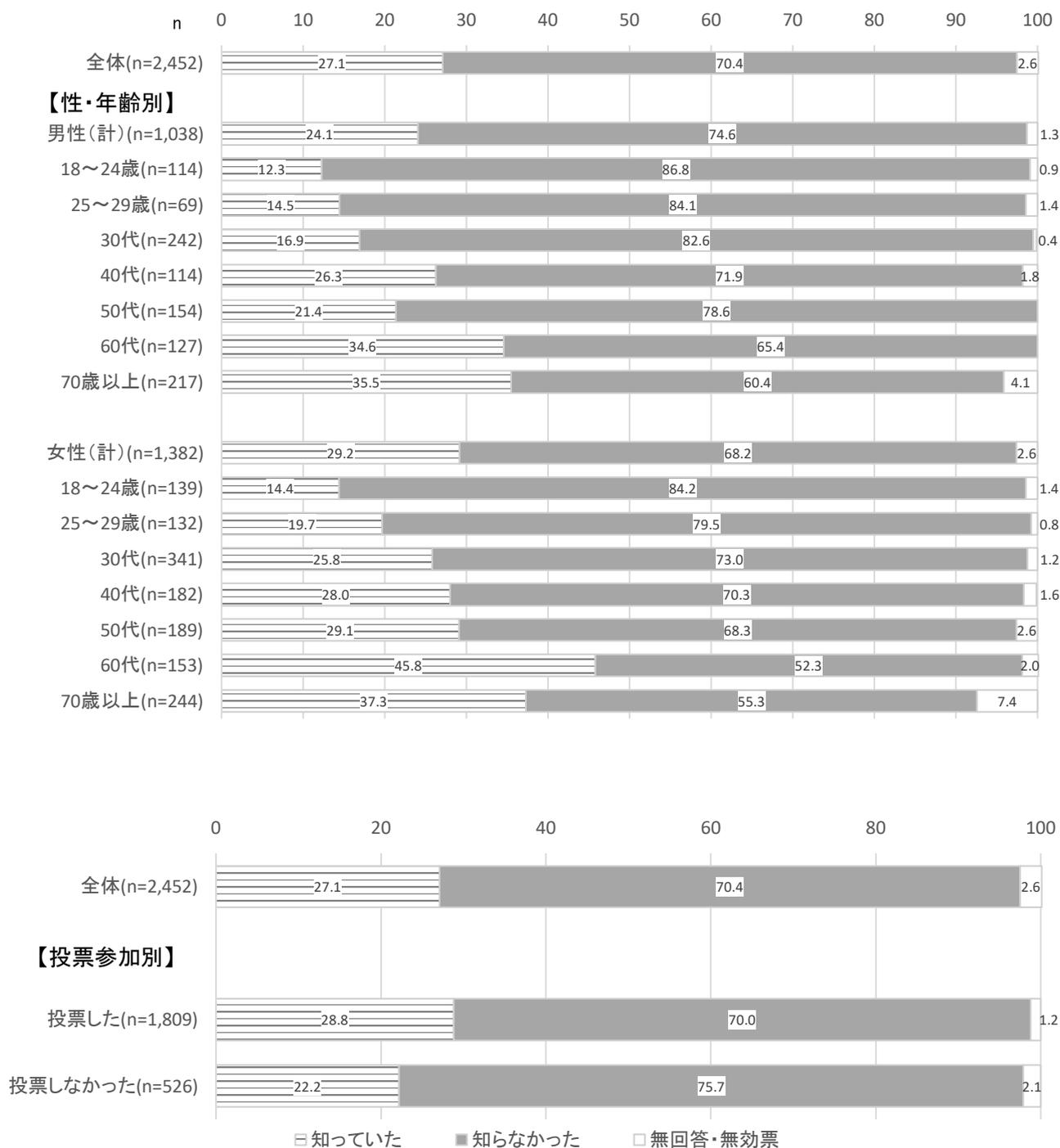
ポイント高くなっている。(図表V-6-3)

投票参加別にみると、「知っていた」は投票した人(28.8%)の方が、投票しなかった人(22.2%)より6.6ポイント高くなっている。(図表V-6-3)

図表V-6-3 病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度の認知

(性・年齢別、投票参加別)

(%)



## 7 新型コロナで宿泊・自宅療養等をしている方の特例郵便等投票の認知

◇ 特例郵便等投票を「知っていた」は 18.9%

問20 新型コロナウイルス感染症で宿泊・自宅療養等をしている方で、一定の要件に該当する方は、令和3年6月23日以後にその期日を公示又は告示される選挙から「特例郵便等投票」ができるようになりました。あなたは、このことをご存じでしたか。(○は1つだけ)。

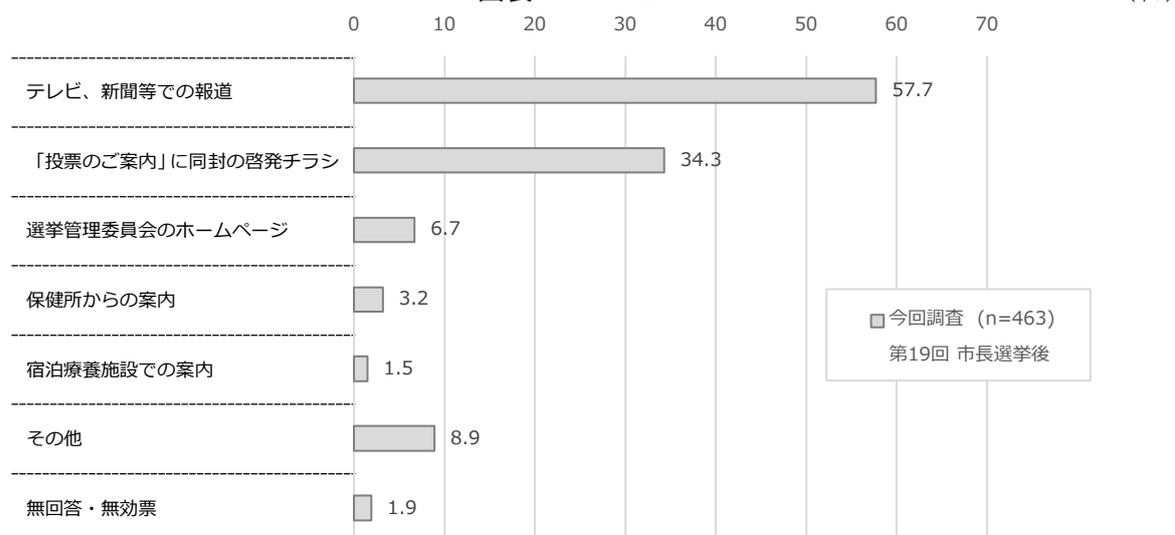
図表V-7-1



(問20で「1. 知っていた」とお答えの方に)

問20-1 このことを何で知りましたか、次の中からあげてください。(○はいくつでも)

図表V-7-2



新型コロナウイルス感染症で宿泊・自宅療養等をしている方で、一定の要件に該当する方は、「特例郵便等投票」ができることを知っているか聞いたところ、「知っていた」は 18.9%、「知らなかった」は 78.5% となっている。(図表V-7-1)

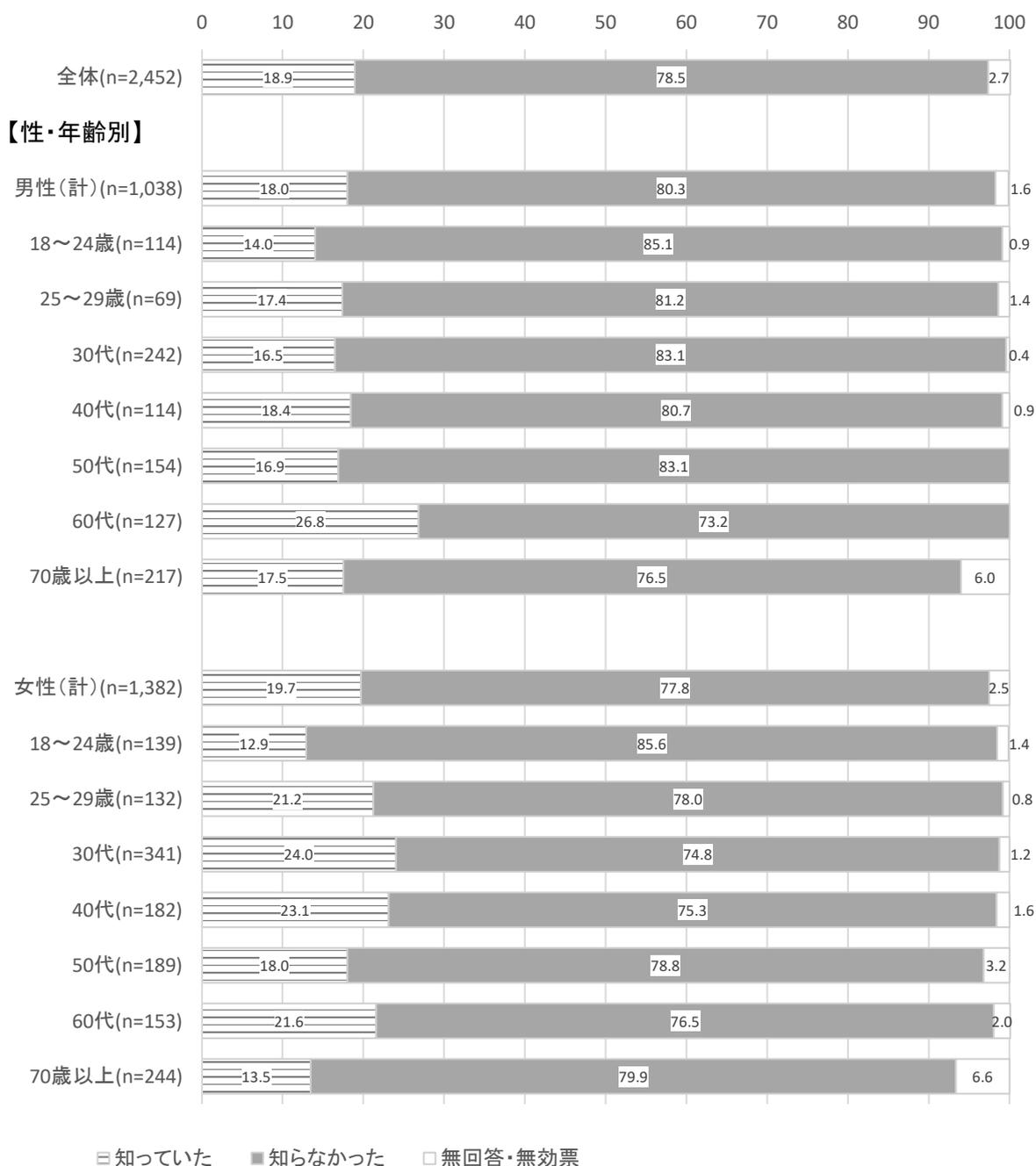
「知っていた」と答えた人(463人)に、知ったきっかけを聞いたところ、「テレビ、新聞等での報道」(57.7%)、「『投票のご案内』に同封の啓発チラシ」(34.3%)、「選挙管理委員会のホームページ」(6.7%)などの順となっている。(図表V-7-2)

新型コロナで宿泊・自宅療養等をしている方の特例郵便等投票の認知度について、性・年齢別にみると、「知っていた」は、『男性（計）』（18.0%）より『女性（計）』（19.7%）の方が1.7ポイント高くなっている。（図表V-7-3）

図表V-7-3 新型コロナで宿泊・自宅療養等をしている方の特例郵便等投票の認知

（性・年齢別）

（%）



新型コロナで宿泊・自宅療養等をしている方の特例郵便等投票を認知した方法について、性・年齢別にみると、「テレビ、新聞等での報道」は、男女ともに年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向があり、「70歳以上」では7割を超えている。(図表V-7-4)

図表V-7-4 認知した方法

(%)

